

○ 経営目標設定の考え方

(公財) 大阪府文化財センター

資料1

ミッション

対応方針

戦略目標【参考：中期経営計画の目標値】

- 府が実施する文化財発掘調査の補完及び普及啓発を行なう
- ・ 将来にわたり公正かつ正確な調査の履行を担保する安定した法人運営
- ・ 博物館の効率的な運営や効果的な展示を進める

- 1 博物館事業の効果的实施
 - 施設利用者の満足度向上
 - 博物館利用者の拡大
 - 「出かける博物館」事業の活性化

- 2 府域における文化財普及・啓発
 - 発掘調査成果の発信
 - 発掘調査資料の活用

- 3 法人運営の安定化
 - 博物館事業のコスト削減
 - 正味財産の安定確保
 - 発掘調査の効率化

- ① 魅力ある博物館創り・発掘調査成果の公開
 - 施設利用者等満足度
 - ・ 弥生文化博物館利用者【71%(H24)→73%(H28)】
 - ・ 近つ飛鳥博物館利用者【61%(H24)→63%(H28)】
 - ・ 日本民家集落博物館利用者【80%(H24)→82%(H28)】
 - ・ 発掘調査遺跡現地公開参加者【80%(H24)→82%(H28)】

- ② 博物館利用者の拡大
 - ・ 博物館入館者数【211,300人(H24)→223,300人(H28)】

- ③ 「出かける博物館」事業の活性化
 - ・ 館外事業（出前授業・講座等）実施件数【740件(H24)→780件(H28)】
 - ・ 館外事業の参加者数【49,000人(H24)→50,000人(H28)】

- ④ 埋蔵文化財発掘調査成果の活用
 - ・ 発掘調査の現地公開、セミナー等の参加者数【4,100人(H24)→5,760人(H28)】
 - ・ 発掘調査の成果活用件数【145件(H24)→165件(H28)】

- ⑤ 効率的な経営
 - ・ 博物館事業の効果的実施（利用者一人あたり経費）【1,250円(H24)→1,200円(H28)】
 - ・ 安定的財政基盤の確立（正味財産増加率）【0.2%(H24)→0.2%(H28)】
 - ・ 効率的経営の促進（調査担当者一人あたりの調査面積）【3,650㎡(H24)→3,700㎡(H28)】

中期経営計画に基づく基本方針(目標設定の考え方)

中期経営計画の概要

<p>中期ビジョン (法人が目指す中期の到達点)</p>	<p>【文化財で心を豊かに】⇒「温故知新」で文化力向上 文化財を通して、先人の知恵と工夫を学び、これを広く府民に伝えていきます。 【文化財を身近に】⇒歴史教育への寄与 【博物館管理運営事業や文化財公開活用事業を通して、明日を担う子ども達に歴史の大切さを伝えます。 【新たなステージへ】⇒新たな成長への挑戦 公共事業が減少するなか、新規の文化財公開活用事業などを開拓・展開し、新たな事業推進を確立します。</p>	<p>中期経営計画名称 (計画期間) 公表先URL</p>	<p>中期経営計画 (平成24年度～平成28年度) http://www.ech.or.jp</p>
----------------------------------	---	---------------------------------------	--

戦略	成果測定指標	単位	最終年度の到達目標	目標達成のための活動事項
①魅力ある博物館創り・展開促進の公開	施設利用者等満足度		①73[%] ②83[%] ③82 ④82	①地元府や府内の企業・団体などへ協賛して事業を推進。 ②事業等からの意見やアンケート結果を参考に事業を改善。 ③特別展、企画展ではその魅力を十分に伝える工夫と手法を推進。 ④各施設利用者アンケートを実施し、改善に活用。 ⑤各施設での自費の導入、提供に注力。 ⑥日々実施する展示・公開事業やイベントの質を向上。 ⑦展示・公開の質を向上させるため、研修やセミナーを実施。 ⑧展示・公開の質を向上させるため、研修やセミナーを実施。
	①近郊農産物産地施設利用者 ②日本民家集落博物館施設利用者 ③美術館調査連携現地公開参加者 ※【】の数値は、「やや満足」を含む満足度[%]である。	%		
②博物館利用者の拡大	博物館入館者数	人	①40,800 ②112,500 ③50,000	①地元府、関係団体と連携したセミナーなどの内容充実。 ②展示・公開とも併進した「出かける博物館」事業の積極的推進。 ③ファミリー向け、地元産品と絡めた事業を推進。 ④市民の参加意識の向上を図り、博物館の価値を伝える。 ⑤体験学習(むすびの暮らし)の充実を図り学校団体の見学向けに力。 ⑥外国人の利用拡大を目的として一層のPR活動を推進。
	①公立文化博物館 ②近郊農産物産地 ③日本民家集落博物館	人		
③出かける博物館(事業)の活性化	館外事業(出張展・企画展)実施件数	件	780	大阪府教育委員会、堺市教育委員会等との連携強化。 学校や市内各地を訪問し、出展事業や出張展などを積極的に展開。
	館外事業の参加者数	人	50,000	
④地域文化財発掘調査成果の活用	発掘調査の現地公開、セミナー等の参加者数	人	5,760	「歴史講座」など、一般の関心が高まる場所での展示事業を推進。 「市民講座」などの開催、NPO法人や学校団体との連携して事業を推進。
	発掘調査成果活用件数	件	163	「歴史講座」や学校団体などと連携し、資料資料を活用する機会を増加。 ホームページを通じて、最新の発掘調査成果を発信し、利便性を向上。
⑤効率的な経営 (博物館事業の効率的実施)	利用費一人あたり経費 (事業費/利用者数)	円	1,500	多様な事業・イベントを差別し、入館者数を増加。 効率的な運営体制により経費削減。利用者一人あたりの経費を削減。
	地域文化財調査連携費一人あたりの調査費削減	円	3,700	レーザー測量機などの新しい技術の導入促進。 発掘調査の効率化と調査費削減の推進。
⑥実効的財政基盤の確立	正味財産増加率 (前年度実績/前年度実績)	%	0.2	収益向上策として、実効的経費削減をとりつ、健全な経営を推進。正味財産を増加。
	貸付金・寄付金 (歴史的建造物保存修繕のための自主財源の確保)	円	3,800,000	貸付金確保のため、新たな借入内債の発行。 求職者に対して、より一層の資金活用を図る。

(参考) H25経営目標

I. OS(利用者満足度)、事業効果(設立目的と事業内容の適合性)

戦略	成果測定指標	単位	H25目標値	中期計画H25目標値	H25目標値設定の考え方 (数値の根拠)
①魅力ある博物館創り・展開促進の公開	施設利用者等満足度		①71[%] ②83[%] ③82 ④80	①71[%] ②81[%] ③82 ④80	①①-④ ・前年度実績を踏まえ設定 ② ・学芸専門の観点から、子どもにも理解しやすいように、写真やイラストを多用したわかりやすい解説を実施。 ③ ・特別展とも連携して、見逃しコーナーを推進するなど「満足を再確認」し、わかりやすい現地公開を推進して、定員に近づける。 ④ ・これまでにアンケート結果分析からみて、満足度でのアンケートやアンケートの回答率による満足度は傾向と士気が、平成25年度も満足度である80%を維持。
	①公立文化博物館施設利用者 ②近郊農産物産地施設利用者 ③日本民家集落博物館施設利用者 ④美術館調査連携現地公開参加者 ※【】の数値は、「やや満足」を含む満足度[%]である。	%			
②博物館利用者の拡大	博物館入館者数	人	①59,800 ②111,500 ③41,200	①59,800 ②111,500 ③41,000	・指定管理申請前、中期経営計画の目標値に沿って設定
	①公立文化博物館 ②近郊農産物産地 ③日本民家集落博物館	人			
③出かける博物館(事業)の活性化	館外事業(出張展・企画展)実施件数	件	745	745	・指定管理申請前、中期経営計画の目標値に沿って設定
	館外事業の参加者数	人	49,500	49,300	
④地域文化財発掘調査成果の活用	発掘調査の現地公開、セミナー等の参加者数	人	4,500	4,500	・事業計画年度実績(インバウンド)に加えて、近畿文化サロンや近畿産物展、NPO法人や大学などの活用を通して、関心を持ってもらう。 ・平成23年度も現地公開などの連携など、あらたな成果を挙げ、平成24年度も目標値を達成。
	発掘調査成果活用件数	件	150	150	・中期経営計画年度実績は、博物館での展示や調査連携などの成果をさらに増加。 ・委員会においても、資料資料を活用するなどの成果を推進。 ・平成23年度も現地公開での連携など、あらたな成果を挙げ、平成24年度も目標値を達成。 ・ホームページでの情報発信も、積極的な推進を図る。

II. 財務(健全性・採算性)-効率性(コスト抑制と経営資源の有効活用、自立性の向上)

戦略	成果測定指標	単位	H25目標値	中期計画H25目標値	H25目標値設定の考え方 (数値の根拠)
⑤効率的な経営 (博物館事業の効率的実施)	利用費一人あたり経費 (事業費/利用者数)	円	1,450	1,200	・前年度実績を踏まえ設定
	地域文化財調査連携費一人あたりの調査費削減	円	3,650	3,850	・平成24年度は新発掘調査に開始した。この10年で最大規模の調査を実施し、最新の調査データを取り、調査費削減を推進。 ・平成23年度は、こうした大規模調査が終了し、小規模な調査が主体となる。平成24年度は、レーザー測量機を積極的に活用し、24年度の目標として削減(5450円)という一人あたり調査費削減を推進。
⑥実効的財政基盤の確立	正味財産増加率 (前年度実績/前年度実績)	%	0.2	0.2	・中期経営計画に沿って設定
	貸付金・寄付金 (歴史的建造物保存修繕のための自主財源の確保)	円	3,200,000	-	・企業等からの貸付金(累計3,200,000円)、募金などの寄付金(累計2,000,000円)と想定

24年度の経営目標達成状況及び25年度目標設定表

<p>法人経営者の考え方 (平成25年度の課題と重点目標)</p>	<p>【課題】 ・発掘調査事業量の確保と新たな事業構想の確立 ・博物館利用者の満足度向上とさらなる利用促進</p>	<p>【重点目標】 ・新規事業への参入および柔軟な組織体制の構築。 ・専門能力のより一層の向上。 ・PDCAサイクルによる利用者満足度の向上。 ・博物館の利用促進。 ・安定的財政基盤の確立。</p>
---------------------------------------	---	---

I. CS(利用者満足度)、事業効果(設立目的と事業内容の適合性)

目標項目	成果測定指標	単位	H24実績	H25実績	H24目標値 (実績(見込)比)	コメント (H25)	H25目標	目標達成のための取組事項
①魅力ある博物館創り・発掘調査成果の公開	施設利用者等満足度	%	5	①71[93]	①71[95] ×①68[93]	5	①71[95]	①地元市や府内の企業・学校なども連携して事業を推進。 ・来館者からの意見やアンケート結果を反映して館運営を改善。 ②特別展、企画展ではその魅力をやさしく解説する工夫と手法を実践。 ・やさしい展示解説やコミュニケーションを積極的に実施。 ③園路などの日常の手入れ、清掃に注力。 ・様々な来館者層のために順路表示や案内パンフレット等を整備。 ④博物館とも連携して、体験コーナーを設置。 ・「遺跡を身近に感じる」を重点テーマとして公開を促進。
	①弥生文化博物館施設利用者							
	②近つ飛鳥博物館施設利用者							
	③日本民家集落博物館施設利用者							
④発掘調査遺跡現地公開参加者 <small>※【】の数字は、「やや不足」を意味した満足度(%)である。</small>	5	④80	④80 ④80	5	④80			
②博物館利用者の拡大	博物館入館者数	人	3	(63,223)	①59,300 ×①58,300	3	59,600	①地元市、関係団体と連携したミニギャラリーなどの内容を充実。 ・民間会社とも協働した「出かける博物館」事業の積極的な推進。 ②フリーマーケットなど、地元自治体と協働した事業を推進。 ・府民の芸術活動の発表の場として、博物館の積極的活用を推進。 ③体験学習「むかしの暮らし」の充実を認り学校団体の参入に注力。 ・外国人の利用拡大を目指して一層のPR活動を推進。
	①弥生文化博物館							
	②近つ飛鳥博物館							
③日本民家集落博物館	3	(34,505)	③41,000 ×③38,900	3	41,000			
	学校への営業件数(プロセス)	件	6	115	140 180	5	180	学校への訪問・誘致活動の強化。
③「出かける博物館」事業の活性化	館外事業(出張授業・講座等)実施件数	件	10	(727)	740 745	10	745	大阪府教育委員会、市町村教育委員会等との連携強化。 ・学校や府内各地を訪問し、出前事業や出張講座などを積極的に展開。
	館外事業の参加者数	人	5	54,956	49,000 55,770	3	49,500	
④埋蔵文化財発掘調査成果の活用	発掘調査の現地公開、セミナー等の参加者数	人	10	4,035	4,100 4,250	10	4,500	図書館など、一般の方々が多く集まる場所での展示事業を開催。 ・百貨店などの民間、NPO法人や学校団体との連携して事業を展開。 ・百貨店や学校団体などと連携し、実物資料を活用する機会を増加。 ・ホームページを通して、最新の発掘調査成果を発信し、利用を促進。
	発掘調査成果活用件数	件	10	140	145 147	10	150	

II. 財務・効率性(健全性・採算性、コスト抑制と経営資源の有効活用、自立性の向上)

⑤効率的な経営 (博物館事業の効果的実施)	利用者一人あたり経費 (事業費/利用者数)	円	10	(1,252)	1,250 1,154	10	1,150	多彩な事業・イベントを展開し、入館者数を増加。 ・効率的な管理運営により経費削減、利用者一人あたりの経費を削減。 ※24年度目標値及び25年度実績値のカッコ内は日本民家集落博物館をのぞいた数値
	(効率的経営の推進)	埋蔵文化財調査担当者一人あたりの調査面積	m ²	10	3,616	3,650 4,284	10	
(安定的財政基盤の確立)	正味財産増加率 (当年度実績額/前年度実績額)	%	10	1.9	0.2 ×-3.1	10	0.2	公益財団法人として収支相償を図りつつ、自主事業等を充実させ、正味財産を維持。
(民家集落博物館展示民家保存修理のための自主財源の確保)	奨助金・寄付金	円	—	3,392,503	— 3,275,717	3	5,200,000	奨助金確保のための企業訪問。 ・募金活動の強化。

【凡例】
 ・☆はH25からの新規項目
 ・×は目標値未達成
 ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
 ・()はH25から目標とするため、参考として記入した実績値

CS調査の実施概要

○平成24年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
①弥生文化博物館利用者CS満足度調査 ②近つ飛鳥博物館利用者CS満足度調査 ③日本民家集落博物館利用者CS満足度調査 ④発掘調査遺跡現地公開参加者CS満足度調査	①弥生文化博物館利用者へのアンケート ②近つ飛鳥博物館利用者へのアンケート ③日本民家集落博物館利用者へのアンケート ④発掘調査遺跡現地公開参加者へのアンケート	①弥生博特別展等期間中の来館者 ②近つ博特別展等期間中の来館者 ③民家博特別展等期間中の来館者 ④現地説明会、現地公開開催時の来場者	①約47,000名 ②約30,000名 ③約3,000名 ④約1,300名	①特別展・企画展開催期間中(年4回) ②特別展・企画展開催期間中(年4回) ③特別展・企画展・主要行事開催期間中(年1回) ④現地公開開催時(年3回)

CS調査実施後の改善事例

(②近つ飛鳥博物館)
 ◎展示室内の通路途中の休憩椅子をもう少し増やしてほしい⇒椅子設置箇所を増設。
 ◎無料の音声ガイドの貸出、利用方法がわかりにくい⇒受付での案内板の改善と共に受付スタッフから積極的に声をかけるようにした。
 ◎講演会でのマイク音量不足⇒事前に音量、高音低音チェックを実施した。手持ちマイクからタイピンマイクに変更した。
 ◎展示資料の撮影禁止なのが残念⇒冬季特別展に限り、所蔵者の協力により、撮影可とした。
 (④現地公開)
 公開する調査遺跡は必ずしも公共交通機関でアクセスできる利便性が高い場所にあるわけではなく、時としてこのことが満足度を下げる結果となっていることもある。茨木市千槻寺西遺跡の現地説明会は、バスの便数が限られた山間部に位置することから、バス会社への増便などの依頼を行うとともに、バスをチャーターし、便数の多いバス乗り場へピストン輸送するなどの方策を実施した。

○平成25年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
①弥生文化博物館利用者CS満足度調査 ②近つ飛鳥博物館利用者CS満足度調査 ③日本民家集落博物館利用者CS満足度調査 ④発掘調査遺跡現地公開参加者CS満足度調査	①弥生文化博物館利用者へのアンケート ②近つ飛鳥博物館利用者へのアンケート ③日本民家集落博物館利用者へのアンケート ④発掘調査遺跡現地公開参加者へのアンケート	①弥生博特別展等期間中の来館者 ②近つ博特別展等期間中の来館者 ③民家博特別展等期間中の来館者 ④現地説明会、現地公開開催時の来場者	①約48,000名 ②約30,000名 ③約3,000名 ④約1,300名	①特別展・企画展開催期間中(年4回) ②特別展・企画展開催期間中(年4回) ③特別展・企画展・主要行事開催期間中(年1回) ④現地公開開催時(年3回)

・CS調査 平成25年度目標(再掲)

戦略目標	成果測定指標	単位	H23実績	H24目標 実績(見込)	H25目標値	H25目標値設定の考え方 (数値の根拠)
①魅力ある博物館創り・発掘調査成果の公開	①弥生文化博物館施設利用者	%	①71[93]	①71[95] ①68[93]	71[95]	①～③前年度実績を踏まえ設定 ④遺跡の一般公開においては、考古学ファンのみならず、地元の方々など、老若男女、多様な参加者が来場される。一部の考古学ファンのみならず、子ども達にも理解しやすいように、写真やイラストを使ったわかりやすい解説や、博物館とも連携して、土器パズルなどの体験コーナーを設置するなど「遺跡を身近に感じ、わかりやすい現地公開」を重点テーマとして取り組み、高い満足度を維持する。一方、これまでのアンケート結果からみて遺跡までのアクセスや天候などの不可抗力による不満要因は如何ともしがたく、平成25年度も高い満足度である80%を維持する。
	②近つ飛鳥博物館施設利用者		②55[91]	②61[94] ②65[93]		
	③日本民家集落博物館施設利用者		(3-)	③80 ③89	③89	
	④発掘調査遺跡現地公開参加者		④80	④80 ④80		
	※ []の数値は、「やや満足」を含めた満足度(%)。					

==== 展アンケートのお願い

当館では、よりよい博物館をめざし、皆様からご意見をうかがっております。ご協力よろしくお願いたします。

(該当する にチェックをいれてください)

記入日 年 月 日

1. あなたの性別をお答えください。

男 女

2. あなたの年齢をお答えください。

10歳未満 10代 20代 30代 40代
50代 60代 70代 80才以上

3. あなたのお住まいの地域はどちらですか。

大阪府在住の方は、[] 内へ市町村名をご記入ください。

大阪府 [] 市・町・村
京都府 兵庫県 奈良県 滋賀県 和歌山県
その他 ()

4. どのような交通手段で来られましたか。

自動車 電車・バス 観光バス バイク その他 ()

5. 今回の特別展をどちらでお知りになりましたか。

ポスター・チラシ (当博物館 近鉄駅 他の博物館等の施設)
新聞 インターネット (当博物館ホームページ その他)
府市町村広報誌 雑誌・ミニコミ誌 知人 ラジオ テレビ
来館してはじめて 道の駅 その他 ()

6. ご来館目的を教えてください。

特別展の見学 建物の見学 近つ飛鳥風土記の丘の見学 (散策)
家族、友人に誘われて その他 ()

7. これまでに、当博物館にご来館されたことがありますか。

はじめて 1回~4回 5回~9回 10回以上

8. 特別展はいかがでしたか。

満足 やや満足 やや不満 不満

その理由

裏面につづく

9. 博物館全体を利用していかがでしたか？

満足 やや満足 やや不満 不満

10. 博物館の施設やサービスについてご意見、感想などございましたら、ご記入ください。

11. 博物館に隣接する公園「近つ飛鳥風土記の丘」を利用していかがでしたか？

満足 やや満足 やや不満 不満

12. 近つ飛鳥風土記の丘についてご意見、感想などございましたら、ご記入ください。

13. その他 ご意見、感想などございましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

アンケートのお願い

本日は大阪府立弥生文化博物館にご来館くださりまして、誠にありがとうございます。

今後の運営・展示の参考にさせていただきますので、アンケートにご協力いただきますよう、お願い申し上げます。該当するものの□内にチェック印をおつけください。

■この展覧会をどのようにしてお知りになりましたか。(複数回答可です)

- ポスター (当館 その他博物館・資料館等 駅構内 学校 図書館・公民館等 その他)
チラシ (当館 その他博物館・資料館等 学校 図書館・公民館等 その他) 当館ホームページ
インターネット 当館案内板・垂れ幕 新聞 ミニコミ誌 雑誌 テレビ ラジオ 知人の紹介
招待券 その他 ()

■大阪府立弥生文化博物館へは何回目のご来館でしょうか。

- はじめて 2回目 3～5回目 6～9回目 10回以上

■ 今回の展示についての満足度をお聞かせ下さい。

- 満足 どちらかといえば満足 どちらかといえば不満 不満

■ 今回の展示について、ご意見、ご感想、ご質問などをお願いします。

■ 今回の展示で印象に残ったものは何でしょうか？お教えてください。

■ 今後、どのような内容の展示をのぞまれますか。

■ あなた様についてうかがいます。

性別：男性 女性 無回答

年齢：10代以下 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代以上 無回答

お住まい：和泉市・泉大津市内 大阪府内 () 大阪府外 ()

■ 当館に関するご意見・ご感想等がございましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。またのご来館をおまち申し上げます。

【目標値未達成の要因について】

法人名	公益財団法人大阪府文化財センター
24年度の 成果測定指標	施設利用者等満足度 ①弥生文化博物館 博物館入館者数 ①弥生文化博物館 ③日本民家集落博物館 正味財産増加率
24年度の目標値	施設利用者満足度①71【95】 博物館入館者数①59,300人 ③41,000人 正味財産増加率 0.2%
24年度目標の達成状況 (見込)	施設利用者満足度①68【93】 博物館入館者数①58,300人 ③38,900人 正味財産増加率△3.1%
未達成の要因	◎施設利用者等満足度 特別展等の展示テーマについて、学術性の高い展示は、一般の方々から十分な評価を得られにくく、館のテーマから離れた展示は逆に専門性を求める方々からの評価を得られにくい結果となった。 ◎博物館入館者数 ①前半は好調であったが、2、3月の入館者数が伸び悩み、春休み企画を縮小した影響もあった。 ③例年の実績に比べて、元々今年度の目標数値は過大気味であり、昨年度実績は上回ることができたものの目標値には及ばなかった。 ◎正味財産増加率 今年度は、発掘調査の拠点事務所の建物の除却及び棚卸資産の評価損が発生したことにより、正味財産が減少した。
今後の改善方策	◎施設利用者等満足度 展示テーマや構成上の見せ方の工夫を行うことで解消できることは速やかに改善していく。 専門的な展示も、学術的な水準を下げるのではなく、やさしくわかりやすい解説パネルや解説シートを加えることによって多くの方々に満足してもらおうよう方策を考えていきたい。 ◎博物館入館者数 魅力ある展示テーマはもちろんのこと、今まで以上に魅力ある行事を組み入れていきたい。 また、体験学習メニューを充実させ、小学校等の団体受入れを促進するなどして利用者増に繋げたい。 ◎正味財産増加率 今年度は特別な事由が発生したが、今後は適正な事業量の確保に努め、公益法人の収支相償の原則に従い健全な財政状態の維持に努める。

【H24年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について】

法人名	公益財団法人大阪府文化財センター
成果測定指標	<ul style="list-style-type: none"> ① 日本民家集落博物館利用者満足度 ① 発掘調査遺跡現地公開参加者満足度 ② 学校への営業件数 ③ 館外事業実施件数 ③ 館外事業の参加者数 ⑤ 埋蔵文化財調査担当者一人あたりの調査面積
24年度実績値（見込）	<ul style="list-style-type: none"> ① 89% ① 80% ② 180件 ③ 745件 ③ 55,770人 ⑤ 4,284㎡
25年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 89% ① 80% ② 180件 ③ 745件 ③ 49,500人 ⑤ 3,650㎡
目標達成のための活動事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 園路などの日常の手入れ、清掃に注力し、様々な来館者層のために順路表示や案内パンフレット等を整備する。 ① 博物館とも連携して、体験コーナーを設置するなど、「遺跡を身近に感じる」を重点テーマとして公開を促進する。 ② 学校への訪問・誘致活動を強化する。 ③ 大阪府教育委員会、市町村教育委員会等との連携強化し、学校や府内各地を訪問し、出前事業や出張講座などを積極的に展開する。 ④ レーザー測量機などの新しい技術の導入促進し、発掘調査の効率化と調査費用のコスト縮減を推進する。
法人の活動事項を全く行わない場合、想定される数値（水準）	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 平成24年度に一部の調査で導入したレーザー測量機は、検出した遺構の測量時間をおよそ10分の1に短縮している。
考え方 （中長期のトレンド等）	<ul style="list-style-type: none"> ① これまでどおり、快適に過ごすことができる空間を創出し、現状の高い水準を維持することに努めたい。 ① アクセスや天候などの外的要因での不満要素は払拭できない点があるが、様々な工夫を凝らし、引き続き高い満足度を維持したい。 ② 地元の学校のみならず、これまで訪問していない地域の学校にも足をのばすなどし、訪問件数を維持することに努めたい。 ③ 館外事業に関しては、館外での講演会活動などの能動的な場合と小学校などからの出前授業の要請など受動的な場合に分かれる。両者ともに、今後も積極的に事業を推進するが、出前授業の要請が一学期に集中することなどを考えると、博物館側の人員体制を考慮し、現状の実績を維持することに努めたい。 ⑤ 平成24年度は2万㎡超1件、1万㎡超2件など、この10年で最大規模の調査を中心に取り組んだため、当初の計画を遥かに凌駕する結果となった。平成25年度は、こうした大規模事業が終息することから、24年度に一部の調査で導入したレーザー測量機を効果的に使用しながら、24年度の目標として掲げた「3,650㎡」という一人当たり調査面積を確保したい。